

がんに関する患者アンケート結果

平素は、県政の推進にご理解をいただきまして、ありがとうございます。

本県では、平成24年12月に和歌山県がん対策推進条例を制定するとともに、平成30年3月に第3次 和歌山県がん対策推進計画を策定し、がん対策を総合的に推進しているところです。

この度、令和6年4月を始期とする第4次 和歌山県がん対策推進計画を策定するにあたり、患者のみなさまのご意見を反映させるためアンケートを実施し、その結果について取りまとめました。

ご協力をいただきました皆様には、お忙しい中またご体調が優れないなどの中、本アンケートにご協力を頂きましてお礼申し上げます。

令和5年12月

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課

〔調査概要〕

概 要：県内の医療機関に入院、通院中のがん患者及びがん経験者を対象にした診断や治療等に関する意識調査

手 法：①県内のがん診療連携拠点病院、県がん診療連携推進病院、県立保健所（支所）及び県立図書館等での調査票の配付
②県ホームページでの回答受付

対 象 者：がん患者及びがん経験者

有効回答数：81人

実施時期：2023（令和5）年8月～2023（令和5）年10月

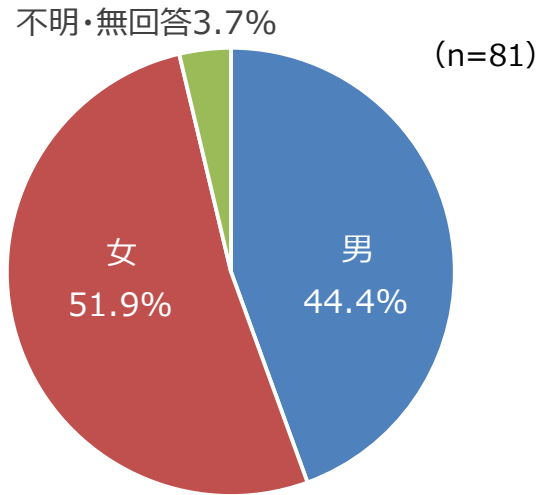
〔注意事項〕

- (1) 比率は全て百分率（%）で示し、小数点第2位以下を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100.0%とならない場合があります。
- (2) 複数回答の設問については、件数で表示しています。
- (3) それぞれのグラフ中の「n」とは、当該設問に対する回答者数を示します。

がんに関する患者アンケート結果

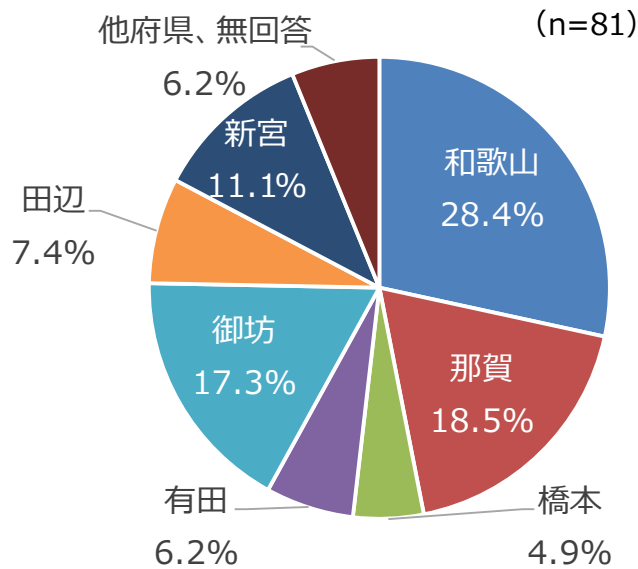
A1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女 3. 答えたくない



A2 あなたの現在のお住まいはどちらですか。

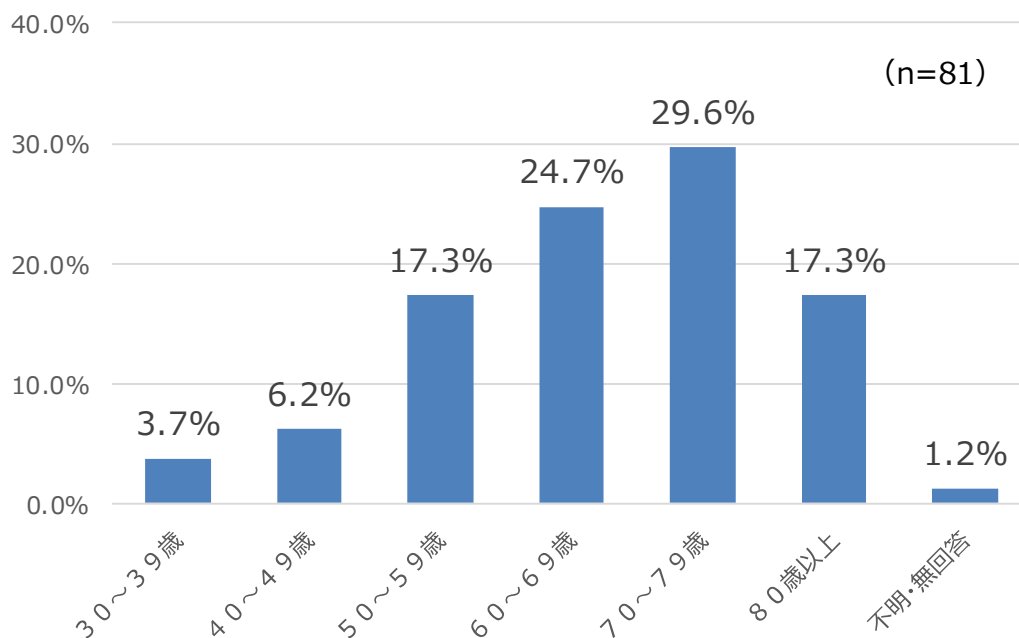
() 市・町・村



[二次医療圏単位で集計]

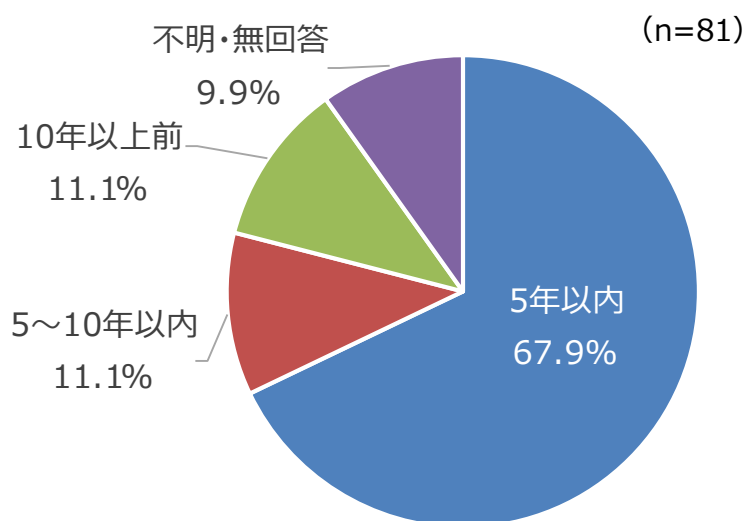
A3 あなたの年齢を教えてください。

- 1. 19歳以下
- 2. 20歳～29歳
- 3. 30歳～39歳
- 4. 40歳～49歳
- 5. 50歳～59歳
- 6. 60歳～69歳
- 7. 70歳～79歳
- 8. 80歳以上



A4 がんと診断されたのはいつ頃ですか。

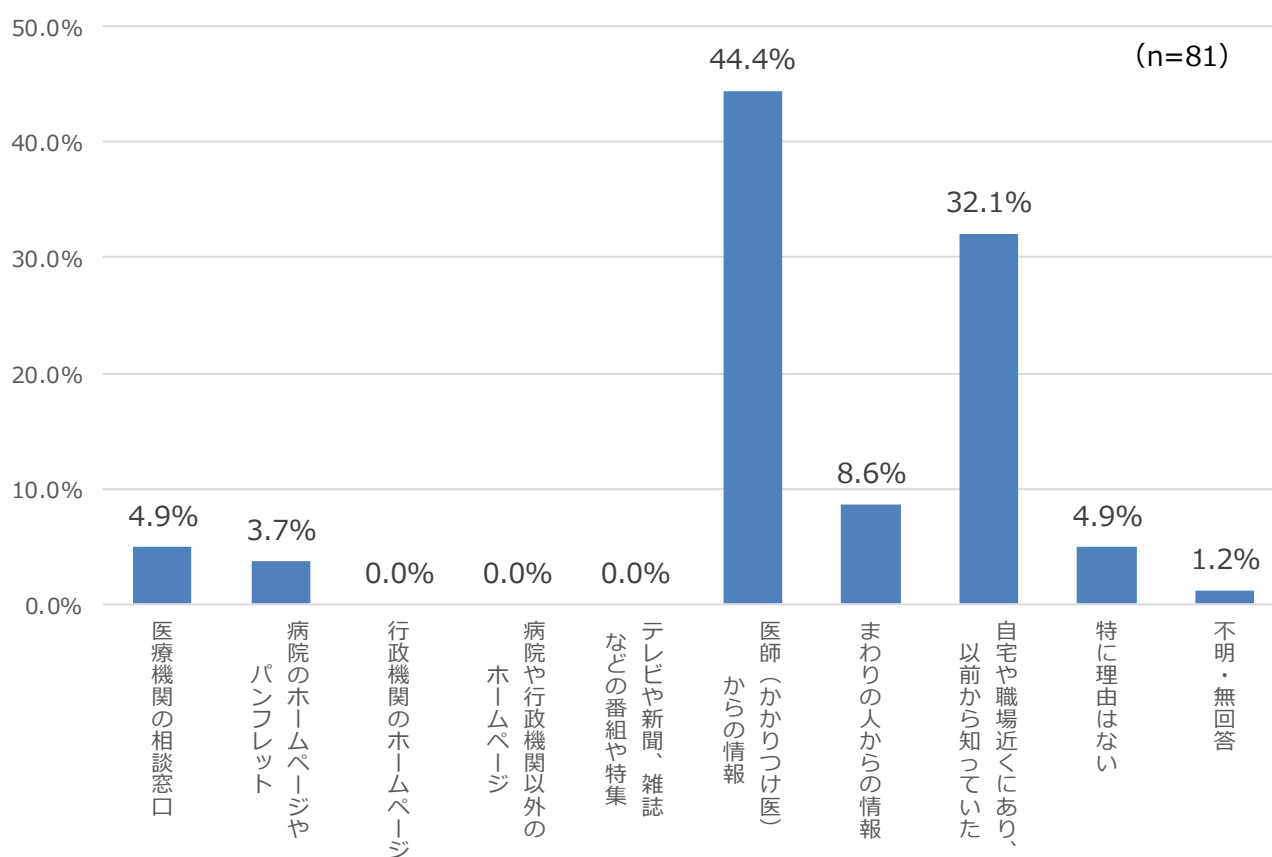
昭和・平成・令和（ ）年（ ）月頃



A8 現在かかっている病院については、どこから情報を入手しましたか（○は1つ）。

1. 医療機関の相談窓口
2. 病院のホームページやパンフレット
3. 行政機関のホームページ
4. 病院や行政機関以外のホームページ
5. テレビや新聞、雑誌などの番組や特集
6. 医師（かかりつけ医）からの情報
7. まわりの人からの情報
8. 自宅や職場近くにあり、以前から知っていた
9. 特に理由はない

医師の紹介が多いこと（A7）から、医師からの情報が最も多く、また、身近な医療機関も選ばれやすい。

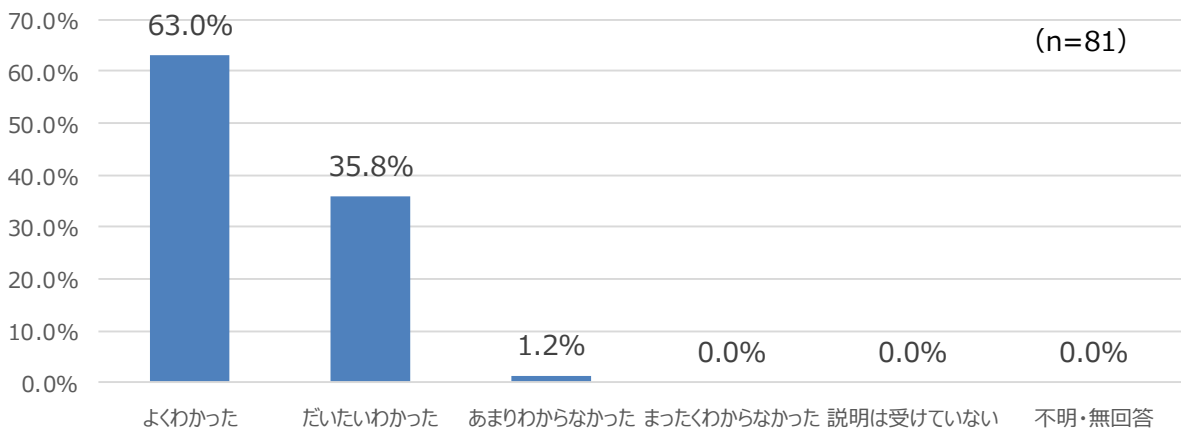


がんに関する診断や治療について

B1 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師からの説明はよく分かりましたか。

1. よくわかった
 2. だいたいわかった
 3. あまりわからなかった
 4. まったくわからなかった
 5. 説明は受けていない
- 5. を選ばれた方は、**B3**へお進みください

医師からの説明について、90%を超える方が理解されている〔選択肢 1,2〕が、1.2%の方があまりわからなかったと回答している。



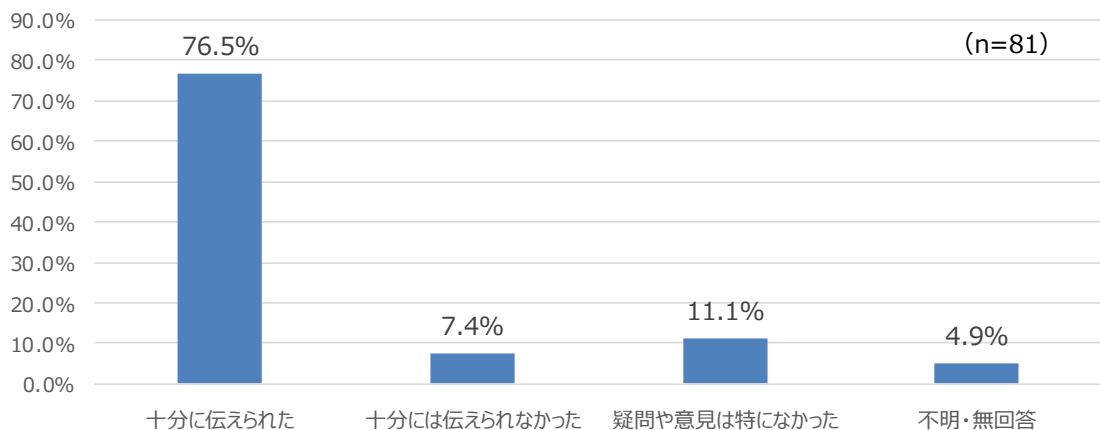
B2 【B1 で 1. よくわかった、2. だいたいわかった、3. あまりわからなかった、4. まったくわからなかった と回答された方にお伺いします】

医師から受けた診断や治療方針について、あなたの疑問や意見を十分医師に伝えられましたか。

→ 回答後、**B3**へお進みください

1. 十分に伝えられた
2. 十分には伝えられなかった
3. 疑問や意見は特になかった

76.5%の方が医師に自分の意見等を伝えられているが、7.4%の方が十分には伝えられていないと回答している。

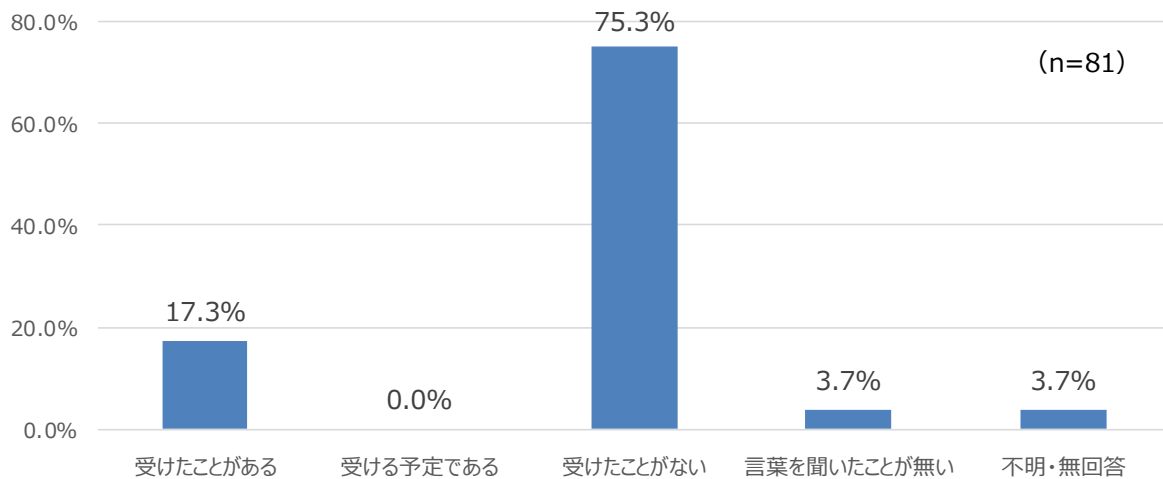


B3 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。

※ セカンドオピニオンとは、診断や治療方針について、主治医以外の他の病院の医師の意見を聞くこと

- 1. 受けたことがある → 1. を選ばれた方は、**B3-2**へお進みください
- 2. 受ける予定である → 2. を選ばれた方は、**B4**へお進みください
- 3. 受けたことがない → 3. を選ばれた方は、**B3-4**へお進みください
- 4. 言葉を聞いたことが無い → 4. を選ばれた方は、**B4**へお進みください

セカンドオピニオンは、17.3%の方が受けたことがあるが、ほとんどの方は受けたことがないと回答している。

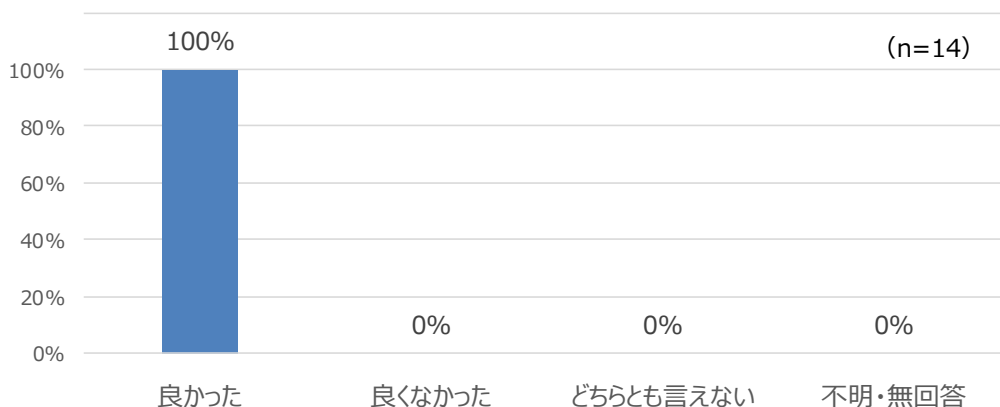


B3-2 【B3 で、1. セカンドオピニオンを受けたことがあると回答された方にお伺いします】

セカンドオピニオンを受けて良かったと思いますか。

- 1. 良かった → 1. を選ばれた方は、**B3-3**へお進みください
 - 2. 良くなかった
 - 3. どちらとも言えない
- } 2. 3. を選ばれた方は、**B4**へお進みください

セカンドオピニオンを受けた方は、全ての方が受けて良かったと回答している。

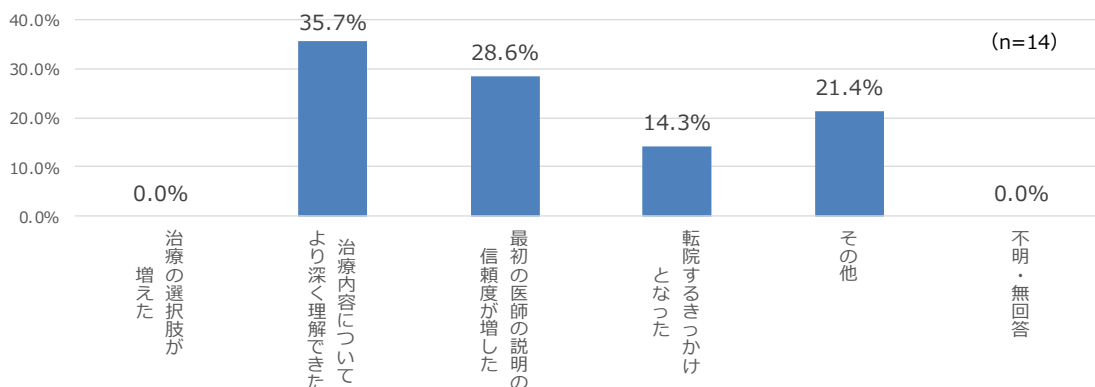


B3-3 【B3-2 で、1、良かったと回答された方にお伺いします】

セカンドオピニオンを受けてどのような点が良かったですか。 → 回答後、**B4**へお進みください

- 1. 治療の選択肢が増えた
- 2. 治療内容についてより深く理解できた
- 3. 最初の医師の説明の信頼度が増した
- 4. 転院するきっかけとなった
- 5. その他 ()

受けて良かった点として、治療内容について深く理解できたことが最も多いが、最初の医療機関の医師への信頼が上がった方もいる。



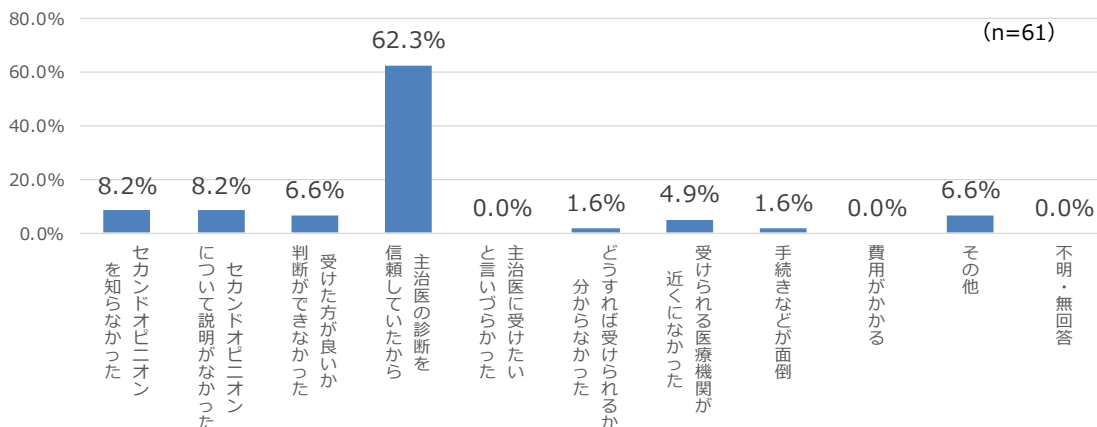
B3-4 【B3 で受けたことがないと回答された方にお伺いします】

セカンドオピニオンを受けなかった理由を教えてください (○は1つ)。

→ 回答後、**B4**へお進みください

- 1. セカンドオピニオンを知らなかった
- 2. セカンドオピニオンについて説明がなかった
- 3. 受けた方が良いか判断ができなかった
- 4. 主治医の診断を信頼していたから
- 5. 主治医に受けたいと言いつらかった
- 6. どうすれば受けられるか分からなかった
- 7. 受けられる医療機関が近くになかった
- 8. 手続きなどが面倒
- 9. 費用がかかる
- 10. その他 ()

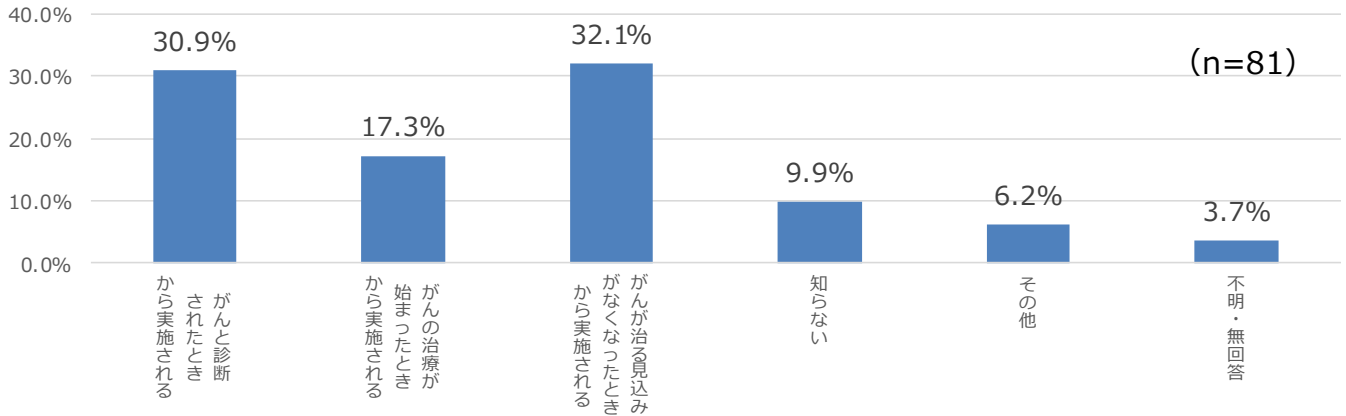
セカンドオピニオンの必要がない理由は、主治医への信頼が最も多いが、セカンドオピニオンについての知識等がなかったと回答した方〔選択肢 1,2〕も約 16%いる。



B4 がん医療における緩和ケアとは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさをやわらげることですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて、どのように理解していますか。

1. がんと診断されたときから実施される
2. がんの治療が始まった時から実施される
3. がんが治る見込みがなくなったときから実施される
4. 知らない
5. その他 ()

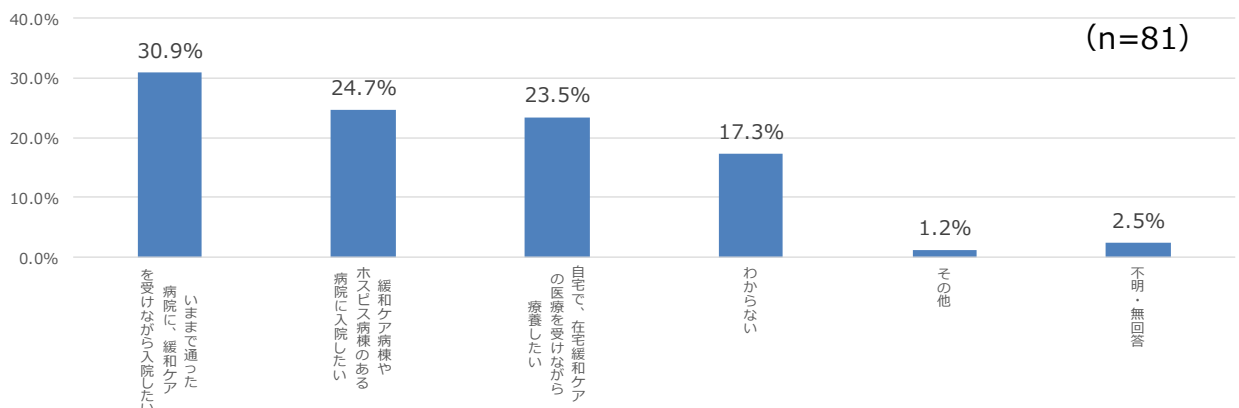
30.9%の方ががんと診断された時から実施されると正しく回答しているが、見込みがなくなった時から実施（終末期医療）されると回答した方が多い。



B5 もし、がんが進行し、治療による改善が難しいとき、療養場所を選択することができるのであれば、どこで過ごしたいと思いますか。

1. いままで通った病院に、緩和ケアを受けながら入院したい
2. 緩和ケア病棟やホスピス病棟のある病院に入院したい
※ 緩和ケア病棟、ホスピス病棟とは、主にからだの苦痛や気持ちのつらさの症状を緩和する治療を提供するところ
3. 自宅で、在宅緩和ケアの医療を受けながら療養したい
4. わからない
5. その他 ()

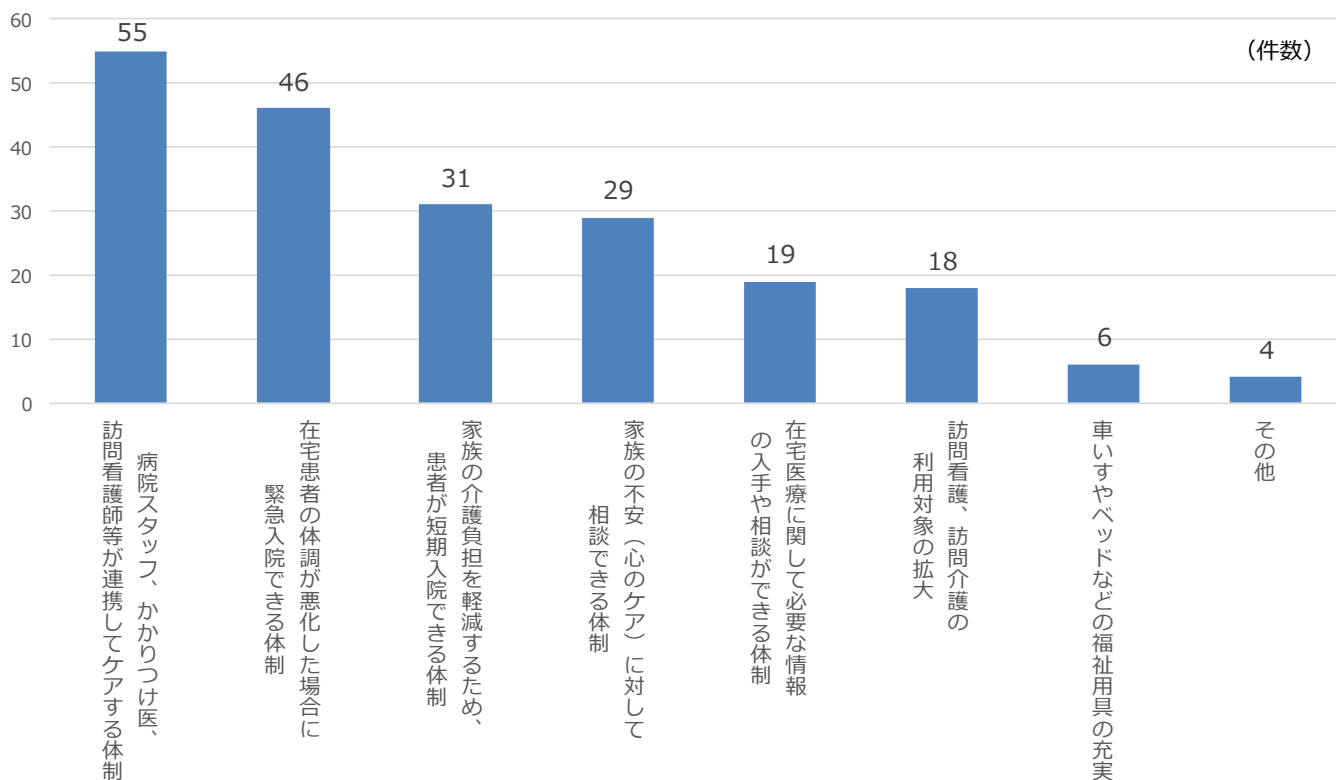
緩和ケアをそのまま病院で受けたいと回答した方が最も多く、次いで緩和ケア病棟等がある病院に入院したい人が多い。



B6 安心して自宅で療養するためには、どのような体制などが必要ですか（〇は3つまで）。

1. 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制
2. 在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制
3. 在宅医療に関して必要な情報の入手や相談ができる体制
4. 家族の不安（心のケア）に対して相談できる体制
5. 家族の介護負担を軽減するため、患者が短期入院できる体制
6. 訪問看護、訪問介護の利用対象の拡大
7. 車いすやベッドなどの福祉用具の充実
8. その他（ ）

医療スタッフ間の連携体制が重要と答えた方が多いが、在宅での緩和ケアに対する支援体制、特に、体調が悪化した場合の緊急入院や介護負担を軽減するための短期入院への要望が多い。



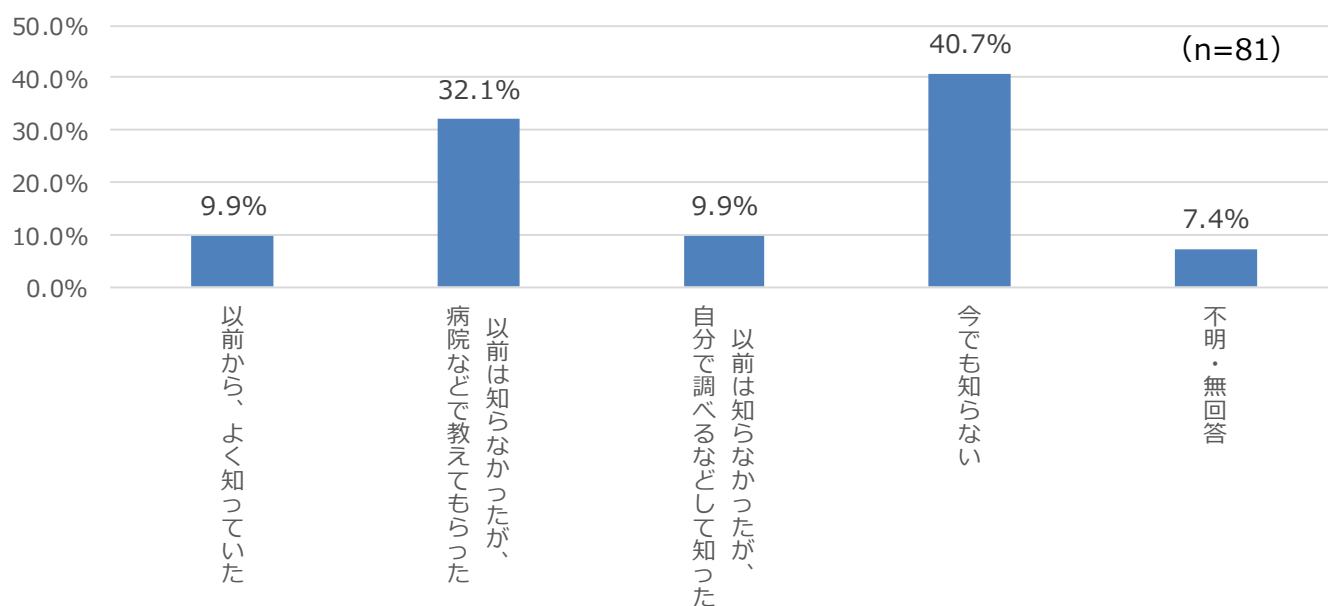
相談支援体制について

C1 がん診療連携拠点病院等の病院内に設置されている「がん相談支援センター」を、がんにかかる以前から知っていましたか。

※ がん診療連携拠点病院等：全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、国や県が、専門的ながん医療の提供等ができる病院として指定している病院

1. 以前から、よく知っていた
2. 以前は知らなかったが、病院などで教えてもらった
3. 以前は知らなかったが、自分で調べるなどして知った
4. 今でも知らない

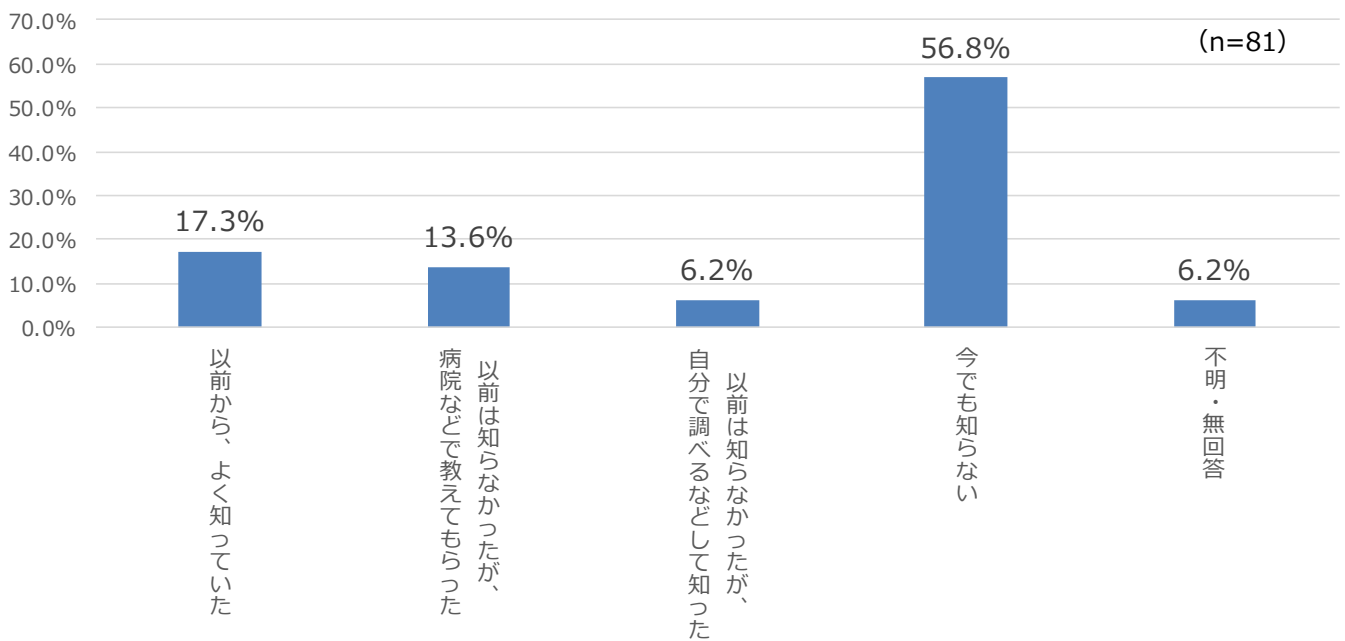
50%を超える方ががん相談支援センターを知っている〔選択肢1,2,3〕と回答しているが、今でも知らない方が40.7%いる。



C3 がん診療連携拠点病院等の病院内などで開催されている「患者サロン（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを以前から知っていましたか。

1. 以前から、よく知っていた
2. 以前は知らなかったが、病院などで教えてもらった
3. 以前は知らなかったが、自分で調べるなどして知った
4. 今でも知らない

37%の方が患者サロンを知っている〔選択肢 1, 2, 3〕と回答しているが、今でも知らないと回答した方も56.8%と最も多い。



就労について

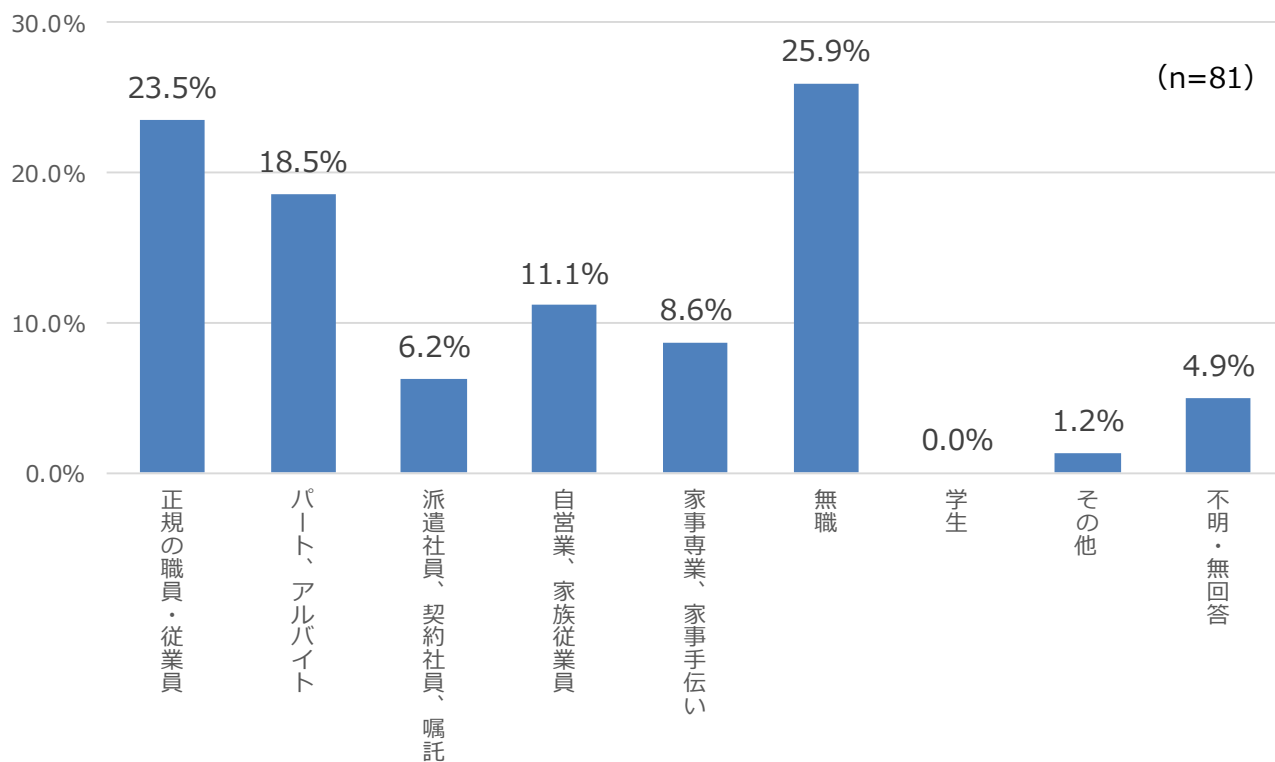
D1 がんと最初に診断されたときの、患者さんご本人の就労状況について教えてください。

1. 正規の職員・従業員
2. パート、アルバイト
3. 派遣社員、契約社員、嘱託
4. 自営業、家族従業員
5. 家事専業、家事手伝い
6. 無職
7. 学生
8. その他 ()

1. から3. までを選ばれた方は、D1-2へお進みください

4. から8. までを選ばれた方は、E1へお進みください

がんに罹患したときに、59%を超える方が就労をしております〔選択肢 1,2,3,4〕、その内 81%（全体の約 48%）の方が企業等に雇用〔選択肢 1,2,3〕されていた。

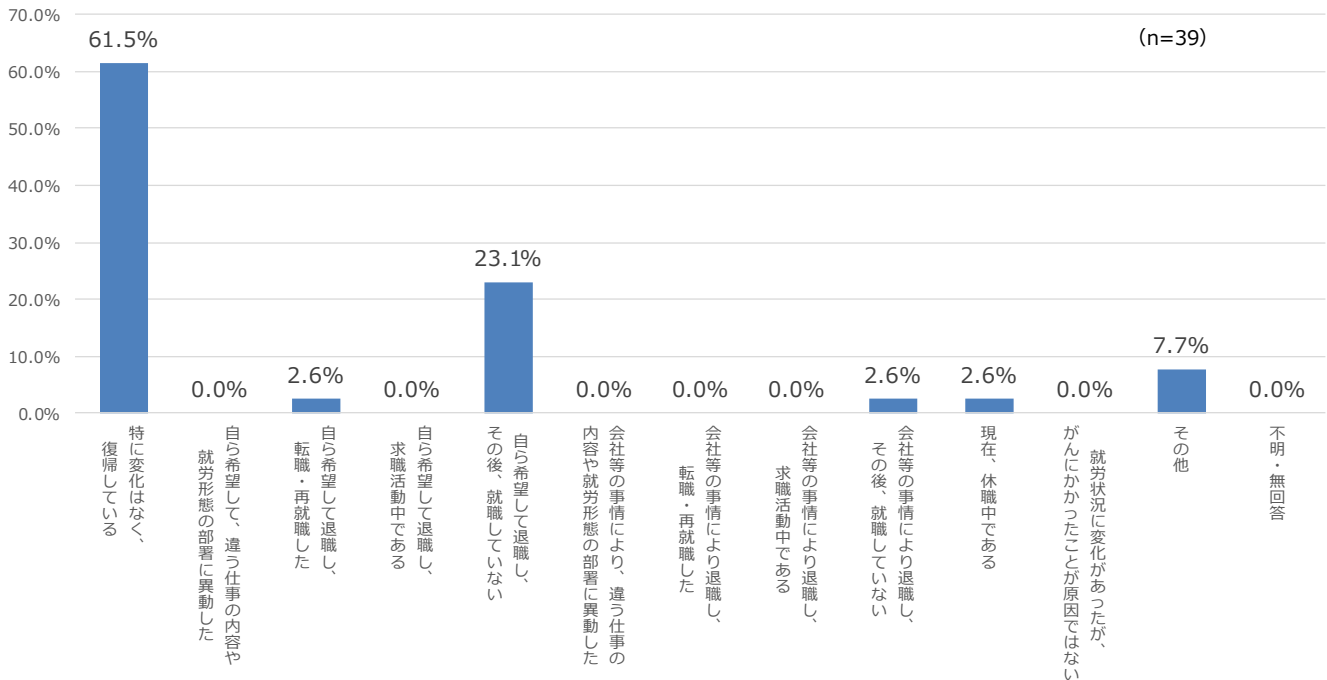


D1-2 【D1で1. 正規の職員・従業員 2. パート・アルバイト 3. 派遣社員、契約社員、嘱託と回答された方にお伺いします】

がんにかかった事が原因で、就労状況に変化はありましたか。→ 回答後、**D1-3**へお進みください

1. 特に変化はなく、復帰している
2. 自ら希望して、違う仕事の内容や就労形態の部署に異動した
3. 自ら希望して退職し、転職・再就職した
4. 自ら希望して退職し、求職活動中である
5. 自ら希望して退職し、その後、就職していない
6. 会社等の事情により、違う仕事の内容や就労形態の部署に異動した
7. 会社等の事情により退職し、転職・再就職した
8. 会社等の事情により退職し、求職活動中である
9. 会社等の事情により退職し、その後、就職していない
10. 現在、休職中である
11. 就労状況に変化があったが、がんにかかったことが原因ではない
12. その他 ()

雇用されていた方のうち、28%の方ががんにかかった後に退職しており〔選択肢 3,4,5,7,8,9〕、26%の方がその後も就職をしていない〔選択肢 4,5,8,9〕。

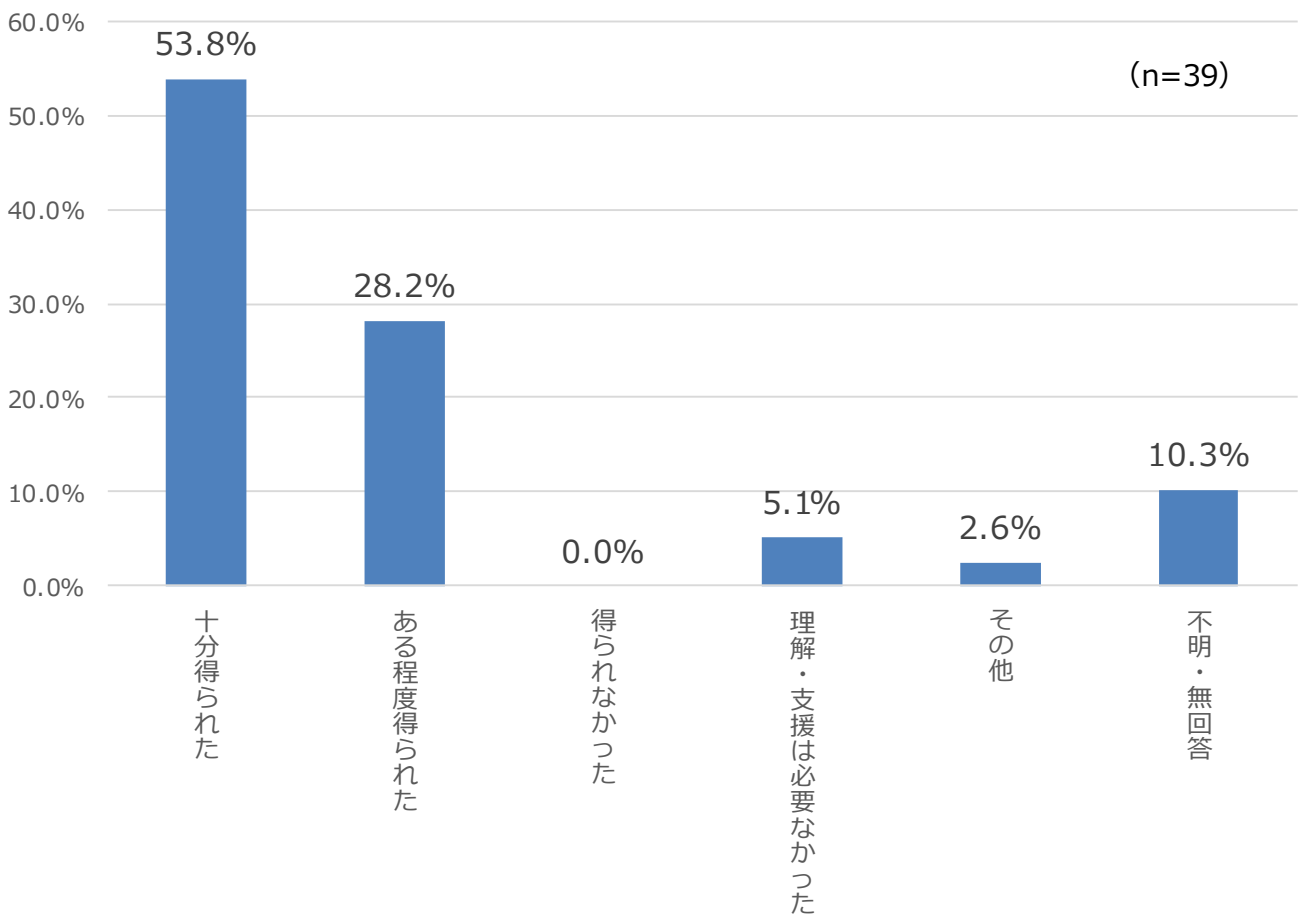


D1-3【D1で1. 正規の職員・従業員 2. パート・アルバイト 3. 派遣社員、契約社員、嘱託と回答された方にお伺いします】

がんが診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。 → 回答後、**D1-4**へお進みください

- 1. 十分得られた
- 2. ある程度得られた
- 3. 得られなかった
- 4. 理解・支援は必要なかった
- 5. その他 ()

雇用されていた方で、仕事の継続に対する事業主の理解を得られている方は多い。

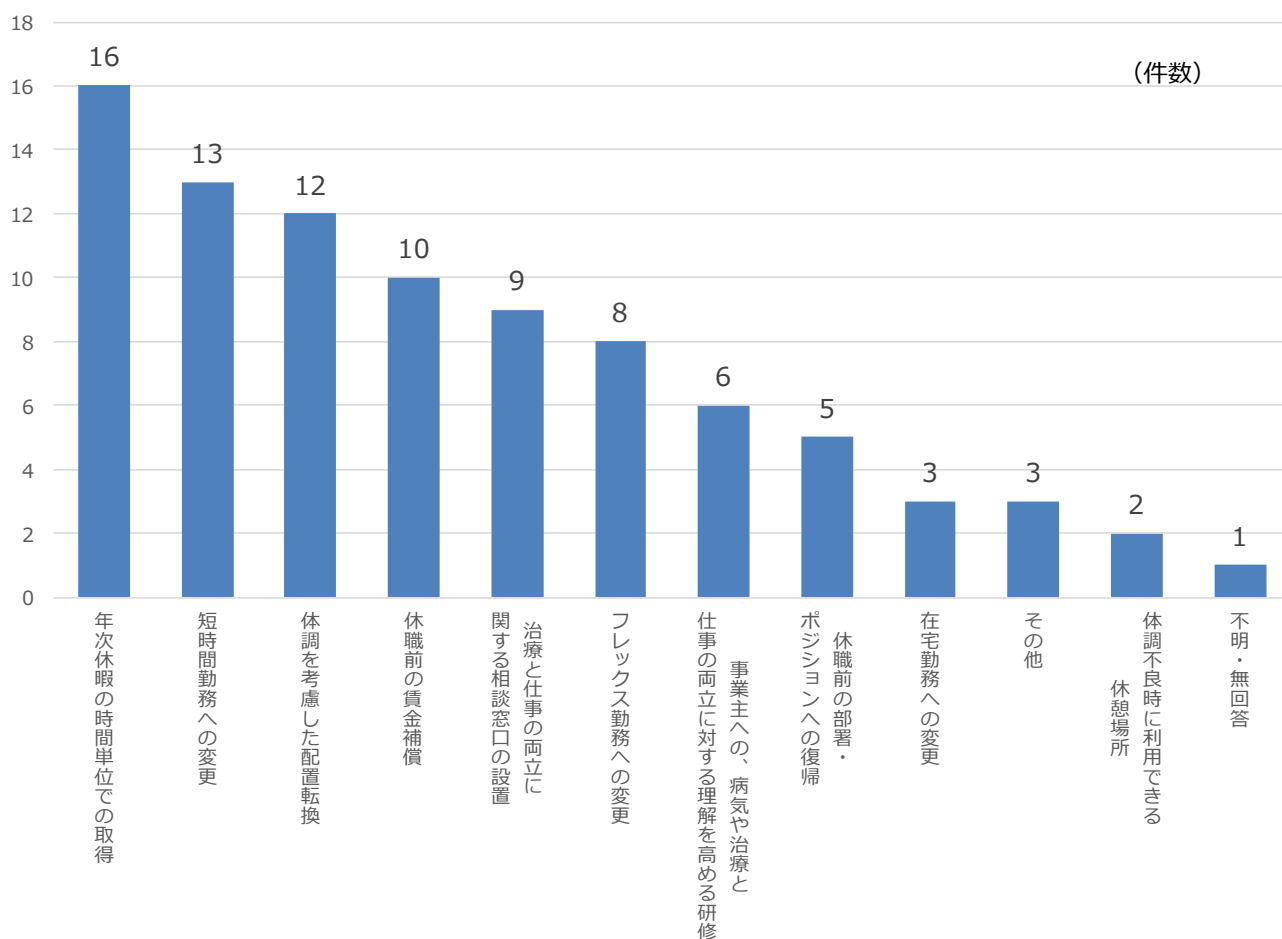


D1-4 【D1で1. 正規の職員・従業員 2. パート・アルバイト 3. 派遣社員、契約社員、嘱託と回答された方にお伺いします】

仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか（○は3つまで）。

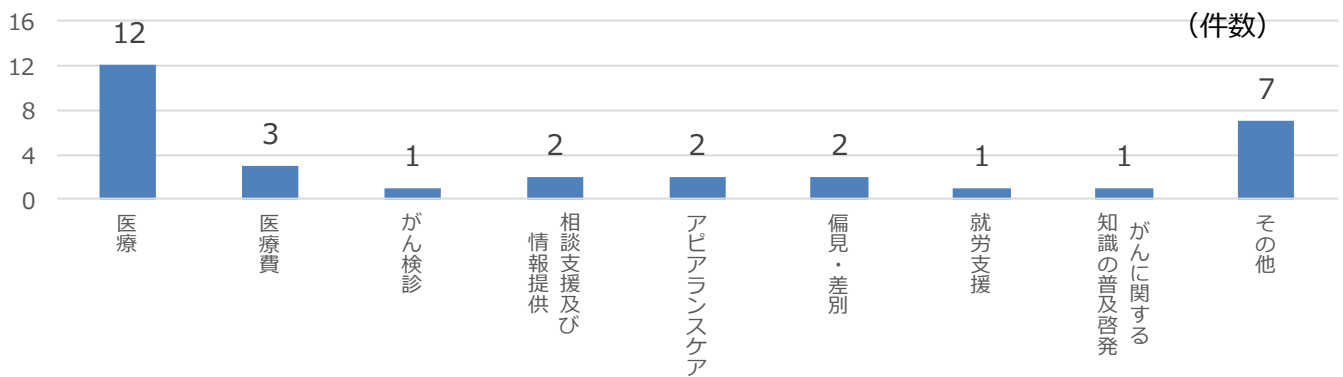
- 1. 年次休暇の時間単位での取得
- 2. 短時間勤務への変更
- 3. フレックス勤務への変更
- 4. 在宅勤務への変更
- ※ フレックス勤務とは、労働者が各自の始業時刻と終業時刻を原則として自由に決められる制度
- 5. 体調を考慮した配置転換
- 6. 体調不良時に利用できる休憩場所
- 7. 休職前の部署・ポジションへの復帰
- 8. 休職前の賃金補償
- 9. 治療と仕事の両立に関する相談窓口の設置
- 10. 事業主への、病気や治療と仕事の両立に対する理解を高める研修
- 11. その他（ ）

仕事を継続する上での必要な制度は、治療するためのフレキシブルな時間の確保や柔軟な職務の割り当てを希望する方が多い。



その他

E1 がん対策全般について、ご意見がありましたら自由に記入してください。



○主なご意見

[医療]

- ・専門的な知識が豊富な医師を増やしてほしい。
- ・医療従事者について、待遇のアップ、能力のアップ、人材の一層の確保を希望。
- ・和歌山県内で種々の治療を受けられるように、医療体制の整備を望む。
- ・がん治療実績の公表について、翌年には調べられるようにしてほしい。

[医療費]

- ・医療費負担が減額あるいはゼロになるような法改正等を望む。
- ・高齢者のがん患者に対して、費用の免除などの制度を望む。

[がん検診]

- ・がん検診の受診率を上げても見落とす医師が多ければ意味がない。

[相談支援及び情報提供]

- ・知識を持って主治医と面談するため、がん認知時点で相談支援センターへ紹介後、主治医と話すほうがいいのではないかと。
- ・病気に対する知識を身近で気軽に得られる場所があればよい。また、病院などを選択できる情報があると助かる。

[アピアランスケア]

- ・和歌山県内（できれば全国）どこの市町村でも助成を受けることができるようにしてほしい。

[差別・偏見]

- ・がんに対する偏見が多い。
- ・がん患者への差別がなくなるように、がんに関する正しい知識を伝える取組が必要。

[その他]

- ・「誰一人取り残さない」がん対策をお願いしたい。
- ・がん対策を頑張ってほしい。
- ・主治医の説明が分かりやすく、選択した治療で肺がん細胞が小さくなった。主治医を信頼してよかった。感謝している。